

令和元年度第1回島田市総合教育会議議事録

日時	令和元年7月3日(水)午後2時00分～午後3時27分
会場	プラザおおるり 第一多目的室
出席者	染谷絹代市長、濱田和彦教育長、牧野高彦委員、秋田美八子委員、原喜恵子委員、磯貝隆啓委員
欠席者	
傍聴人	16人
説明のための出席者	大石教育部長、平松教育総務課長、鈴木学校教育課長、駒形戦略推進課長、和田学校教育課長補佐、廣田教育総務課総務係長
会期及び会議時間	令和元年7月3日(水)午後2時00分～午後3時27分
議事	<p>(1) 島田市立小中学校再編計画(案)について</p> <p>①経過説明</p> <p>②小中学校の再編に関わる懸案事項及び対策</p> <ul style="list-style-type: none">・通学の安全性の確保、児童生徒及び保護者の精神的・経済的負担の軽減・各学校の特色ある教育活動等の継承、新学校における施設の整備 <p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none">・閉校式典、閉校記念誌等
	開 会 午後2時00分
染谷市長	<p>定刻になりましたので、ただいまから第1回総合教育会議を開催いたします。開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は大変お忙しい中、当会議に御出席を賜りまして、まことにありがとうございます。当市の学校現場に関する最近の話題として、改築中の島田第四小学校を除く全ての市立小中学校普通教室にエアコン設置が完了いたしましたので、7月1日より稼働を開始しております。私どももスイッチオンの式に行きまして、子供たちが歓声を上げて喜んでくれて、本当によかったなと思った次第です。エアコンの設置によって、熱中症対策としてはもちろんのことですが、子供たちによりよい学習環境の中で、集中して授業を受けることができる学びの場を提供してまいりたいと考えております。</p> <p>また、市外に目を向けて見ますと、川崎市ではスクールバスのバス停に並んでいた子供たちが、切りつけられるという大変痛ましい事故が発生いたしました。</p> <p>この事故を契機に、学校に対しまして安全指導の徹底だけではなく、保護者や地域への協力もお願いをしたところでございます。子供たちの安心、安全を確保することは保護者の皆様にとって、最大の願いであります。私たちの重要な任務であると認識をしております。このことを胸</p>

に、これからも大切な子供たちの命が危険にさらされることのないよう努めてまいります。今後も教育委員の皆様から、さまざまな御意見、御提案、そして御要望をいただいておりますのでよろしく願いをいたします。

さて、昨年の総合教育会議では、島田市教育環境適正化検討委員会から提言を受けました「子供を最優先にした学校づくり」の観点から学校再編の必要性を話し合い、保護者や地域の方々の理解を得ながら、再編計画の策定を進めていくことで共通認識をさせていただきました。

その後、対象となる学校の保護者や地域の皆様との意見交換会や説明会で、いただいたさまざまな意見を取り入れながら、島田市学校再編計画策定委員会において協議を重ね、このたび島田市立小中学校再編計画案の策定に至ったと伺っております。

私としましても、学校再編はこれにかかわる市民にとって大きな転機になると考えておりますので、この計画は保護者や地域住民の皆様のご期待に応えるようにしなくてはならないと思っております。

こうしたことを踏まえまして、本日の総合教育会議では、教育委員の皆様と計画案について意見を取り交わし、一層期待の持てる計画としていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ここで、濱田教育長から御挨拶をお願いしたいと思います。

濱田教育長

皆さん、こんにちは。たくさんの傍聴の皆さんにも参加していただきましてありがとうございます。

今、市長のほうからもエアコンの話がありましたが、私もエアコンの話を最初にしたいと思います。

第二中の池谷校長からお話を聞いたら、第二中でもエアコンのスイッチを入れるときに生徒から大きな歓声が上がったと聞きました。子供たちにとっても、このエアコンの設置というのは、大きな期待を持って迎えられることではないかなと思います。これから快適な中で授業を行うことによって、学習の充実が図られたらと願っているところです。

学校再編につきましては、この計画案の中にも書かれていますが、平成27年から小中学校のあり方検討委員会が開催され協議をしまして、それを受けて29年からは2年間をかけて適正化検討委員会が開かれています。それを受けて今回、再編策定委員会が開かれています。

2つの会の思いというのですか、自治会の皆さん、それからPTAの皆さんの入った有識者会議で話し合われてきたこと、その思いを大事にしながら策定委員会で協議が行なわれたし、この計画案にもそれが盛り込まれていると思います。

今までに計14回の、学校または地域での意見交換会、説明会を行ってきました。かなりの皆さんからは、理解を得られたのではないかなと思いますが、なかなか難しい部分もあると思います。

私が説明会等で一番実感したのは、これからの時代に向けてどのような力をつけていったらいいか、そういう部分の理解はかなり進んだのではないかなと思っています。

例えば、切磋琢磨していく中でとか、多様な意見に触れる大切さ、そ

れから、子供たちにとって、多くの人と触れ合うために必要なコミュニケーション能力の育成ということも大切にされる力だということは、多くの皆さんに理解されたのではないかと思います。

一方で、子供の安全な登下校とか、統合における子供たちの適応というのですか、本当に子供たちが順応できるかという不安というのは、まだ一部に残っていますし、それをもとに反対する人たちも一定数残っているとは思っています。その人たちの理解を得るような努力は、これからも教育委員会として、果たしていかなければならないと思っています。

本日は、市長と教育委員が互いに意見を交わす中で、まだまだ不安を持っている方々の皆さんにも、安心していただけるような提案になればと思いますし、それから市長の言葉を借りるならば、多くの方の期待に応えるようなよりよいものになったらいいなと思っていますから、皆さん方から積極的な御意見をいただけたらありがたいと思います。

本日は、よろしく願いいたします。

ありがとうございました。

染谷市長

[議 事]

染谷市長

それでは次第に従いまして、議事に入りたいと思います。今回のテーマは、島田市立小中学校再編計画案についてです。

小中学校の再編につきましては、5月17日に教育委員の皆様と意見交換を行いまして、事務局で作成した案について話し合いをさせていただきました。その際、初倉地区については希望の多い湯日小学校と初倉小学校の統合を先行して行って、初倉南小学校については初倉中学校も含めた小中一体校を考えてみてはどうかという話題にまで広がりました。

また、北部地区におきましては、児童生徒が切磋琢磨できる環境を提供することや部活動の選択肢を増やしてあげるためにも、北中学校と島田第一中学校の早期統合が、また課題が多い複式学級の解消や今後の児童数の推移などから、北部4小学校と島田第一小学校の統合が必要であろうという形で、共通認識をさせていただきました。

まず初めに、その後の経過を事務局から紹介していただき、その後、皆さんから感想や質問、御意見等を伺っていきたいと思います。

それでは、教育総務課から学校再編計画案の策定に至るまでの経緯と案の説明をお願いいたします。

平松教育総務課長

それでは、学校再編計画案の策定に至るまでの経過と学校再編計画案について御説明をさせていただきます。

最初に経過説明になります。お手元の資料3が北部地区、初倉地区、両面になりますけれども、各地区のスケジュールの案となります。

資料4につきましては、昨年度教育環境適正化検討委員会から提言書を受け取った後の意見交換会等の経過についてまとめたものとなっております。

資料5と資料6につきましては、それぞれ北部地区、初倉地区の全体説明会のときの質問や意見、それに対してお答えをした資料となります。

5月17日は主に対象校と再編時期につきまして、市長と教育委員の皆様と意見交換を行っていただきましたので、本日はその後の経過について説明をさせていただきます。

意見交換会終了後、5月20日に学校再編計画策定委員会の報告書という形で島田市立学校再編計画案をまとめ、5月21日に北部地区で、5月28日には初倉地区で、それぞれ全体説明会を開催したところでございます。

各地区の説明会では、お手元の資料2、島田市立小中学校再編計画案作成までの経緯、この資料をもとに参加者に経過等の説明をさせていただきます。再編時期の案としては、先ほど市長からもありました北中学校と島田第一中学校を令和3年度に統合、北部4小学校と第一小学校を令和6年度に統合。初倉地区の小学校につきましては、湯日小学校と初倉小学校を令和3年度に統合。初倉南小学校と初倉小学校の再編につきましては、今後も検討を継続するという内容で教育委員会から説明を行っております。

資料5、北部地区説明会には、保護者69人、地域住民が36人、その他8人で計113人の参加者がありました。また、資料にはありませんが、説明会の終了後参加者にアンケートを採った結果では、よく理解ができた、ある程度理解ができたと回答した方が約61%となっております。

北部地区につきましては、全体説明会終了後、学校や自治会、幼稚園からの要請に応じて、個別に説明会に出かけております。資料2の8ページ、最終ページになりますけれども、それと資料4に掲載してありますが6月14日には北中学校区、19日に伊太小学校区、20日には伊久美幼稚園、26日には伊久美小学校区の個別説明会を開催しております。

ここで資料の参加者数の訂正をお願いしたいと思います。資料2の8ページになりますけれども、下から5段目、伊太小学校区の参加人数ですけれども、45人となっておりますが、これを55人に訂正をお願いします。6月19日の伊太小学校区の参加人数45人を55人に訂正をお願いします。

あと1点、資料4になります。こちら下から5行目、6月14日に開催した北中学校区、資料の方が80となっておりますけれども84に訂正をお願いしたいと思います。申しわけございません。

なお、この北部地区につきましては、非常に広範囲となるので、保護者や地区が抱える課題もそれぞれとなっております。個別説明会に出かけたことで、保護者や地域の方、多くの方が大勢の中では発言できなかったこと、あと発言しにくいこと、不安に感じている意見等を多く発言してくれました。

それに対しまして、教育委員会では丁寧に説明ができたと感じているところでございます。

全体説明会から個別説明会、全体を通しまして、再編後の第一小学校、第一中学校ともに南北に非常に広範囲になることで、保護者が不安に感じていることの多くは、通学手段としてスクールバスを運行してくれるのか、コミュニティーバスを利用するのか、土日の部活動の送迎はどう

なるのかといった質問や通学路や自転車道、街灯整備などの安全な登下校の確保についての要望や意見、それと少人数の学校からの統合ということで、子供たちが学校生活の変化に戸惑ってしまう、また、いじめに遭うのではないかとといった不安の声が多く聞かれております。

また、統合時の学級編制や教職員の配置などへの要望、あと制服などの指定用品の購入の仕方や助成などについて意見をいただいたところがございます。そのほかにも、意見等を伺っておりますが、これらが多くの方から出た質問や要望の内容となっております。

また、北中学校の現1年生23人の保護者からは、再編時期が進学を控えた3年次ということで、第一中学校への統合そのものに対する不安、また反対の声が出ているところであります。

次に資料6ですが、5月28日に開催をした初倉地区説明会資料でございます。説明会には保護者51人、地域住民が47人で計98人の参加者がありました。

説明会終了時のアンケート結果では、よく理解できた、ある程度理解ができたと回答した人が、約85%と高い数字になっております。

初倉地区につきましては、昨年12月から3校同時統合案を示し、保護者や地域の方を対象に5回の意見交換会を開催する中で、さまざまな意見をいただいたところがございます。

そのいただいた意見などを学校再編計画策定委員会で報告しながら、協議検討した素案に、5月17日の意見交換会の内容を踏まえて、お示しした再編時期や再編方法に対しまして、参加者からおおむね御理解をいただけたと感じております。

ただ、湯日小学校の保護者や地域の方からは、北部地区と同じように通学方法に対し、スクールバスの運行を望む声や再編後の地域づくりについて多くの不安が出ているところであります。

続きまして、島田市立小中学校再編計画案ということで資料の1に沿って説明をさせていただきます。

資料1の1ページで「はじめに」ということで、この中では現在の社会の状況や文科省の取り組み等を記載した後、平成27年、28年のあり方検討委員会から、地域総ぐるみの教育、夢育・地育の推進、小中一貫教育の推進などを提言されたところがございます。

それを受けまして、29年度、30年度において島田市教育環境適正化検討委員会が開催され、30年9月に提言書をいただきました。その提言書を受けまして、島田市教育委員会ではこの提言を尊重しながら「子供を最優先にした学校づくり」、これをスローガンに掲げ、この実現に向けた具体策としての学校再編計画を策定するというところがございます。

2ページ以降の構成でありますけれども、まず1番として島田市の現状ということで国立社会保障・人口問題研究所がまとめた、今後30年間の推計を掲載させていただきました。2015年から2045年、この30年間で人口では、おおむね約2万2,500人程度が減少、ゼロ歳から14歳の人口につきましても、4,500人ほど減るのではないかとということがくみ取れると思っております。

(2)では、これまでの30年間の児童生徒数の推移を記載させていただきました。1990年から2020年では小学校で約3,000人の減少、中学校では約1,900人が減少、合計で約5,000人の小中学生が減っております。

続きまして、3ページの学校再編に向けた基本的な方針ということで教育環境適正化検討委員会からの提言書、それと学校再編計画策定委員会の協議を踏まえまして、学校再編に向けた基本的な方針を掲載しております。

①として、学校環境の再編は、島田市教育委員会と島田市（市長部局）が緊密な連携をしていくということ。

②小学校の児童数が、一学年当たりおおむね20人を下回る場合には、早期に適正規模化を図るということ。参考となりますけれども、現在、湯日小学校では、2年・3年、4年・5年が複式学級となっております。全体で、湯日小学校は4クラスというクラス編成となっております。また、北部の4小学校につきましては、現在、相賀小と伊久美小で複式学級を編制してございますけれども、令和5年になりますと、伊太小、神座小も、それぞれ複式学級が始まるという状況でございます。

③中学校においては、学級編制ができない場合、単学級の場合は多様な教育活動を可能にするために早期に適正規模化を図るということで、こちら北中学校につきましては、来年度から全て単学級になることが予測されます。

続きまして、④としまして夢育・地育の推進や小中一貫教育等を進めるとともに、島田市の教育の特色づくりが可能となる教育環境を整備していくと記載させていただいております。

続きまして、3番の学校を再編するに当たり設置する組織ということで、(1)にはカリキュラム等検討委員会、こちらでは統合に向けたカリキュラムはもちろん、学校の名称、校歌、学用品、学級編制やPTA組織等の調整を行う。また、それぞれの再編対象校が抱える課題についても協議していく委員会になります。6月28日には初倉地区の小学校部会、7月1日には北中・一中部会のそれぞれ準備会を開催しているところでございます。

(2)の学校施設跡地利活用検討委員会、こちらは、副市長を中心として島田市役所全体で構成するもので、再編後の校舎や敷地の利活用について協議していきます。

また、各学区にワーキンググループを設け、地域づくり（各地区のまちづくり）と合わせ、跡地の利活用に関し地域と一緒に考えていくということで、この会については、7月10日、水曜日に第1回目を開催する予定となっております。

続きまして4ページ、学校再編計画につきましては、先ほど来お話が出てます5月17日に市長と教育委員の皆様が主になって意見交換をしていただいた再編計画となります。

北部地区及び島田第一小、第一中学校につきましては①、北中学校と島田第一中学校を令和3年度に統合。

②としまして、伊太小学校、相賀小学校、神座小学校、伊久美小学校

と島田第一小学校を令和6年度に統合。

(2) 初倉地区小学校につきましては、①湯日小学校と初倉小学校を令和3年度に統合。5ページの②では、初倉南小学校と初倉小学校の再編については今後も検討を継続するというので、小中一体型の一貫校について調査研究を進め、令和3年3月をめどに結論を導き出すような協議を進めていくこととなります。

続きまして、5番の学校再編に対し考慮すべき事項と対策につきましては、意見交換会、説明会を行った後の対策ということで記載をしております。

(1) 通学の安全性の確保で、①遠距離通学となる地域については、スクールバスを運行します。基準については保護者の意見等を聞きながら柔軟に対応します。土日の部活動に参加する際の対応を検討します。スクールバス乗降所まで送迎した場合は、距離に応じたガソリン代の支給を行います。

②中学校の自転車通学については、柔軟に距離等も許可基準を定めま

す。

③統合により通学距離や時間が長くなる場合は、隣接する他学区の学校に就学できるよう指定学校変更制度の改正等を行います。

④通学路の安全性については、防犯灯の設置など自治会や関係機関、関係部署と連携して、さらなる改善に努めます。

(2) 児童生徒及びその保護者の精神的・経済的負担の軽減、①統合前から、授業や校外活動、修学旅行等において、児童生徒の学校間交流を進めていきます。

②統合に関わる学校の教員等を統合後の学校に配置します。

③統合に関わる学校の児童生徒の割合に配慮し、ストレスが軽減するクラス編成を行います。

④統合時に中学校第3学年となる生徒の制服については、統合後に使用する制服を支給または貸与します。

⑤統合時に中学校第2学年となる生徒については、統合後に使用する制服を購入することとします。

⑥対等統合となることから、いずれの再編においても新学校の名称、校歌、校章等を協議します。

⑦統合両校に開設されている部活動については、実態に応じて統合前から合同実施や合同チームの編成等を行います。

(3) 各学校の特色ある教育活動等の継承、①各地域で行ってきた特色ある教育については、保護者や地域の声を聞きながら、新しい学校や各地域でどのように生かしていくのかを協議していきます。

②特認校制度は、継続することを前提として、実施校を他校に変更することとします。

③伊久美地区の自然を生かした移動教室やサタデー（サマー）オープンスクールについては、統合後も継続します。

(4) 新学校における施設の整備、①統合までに安心して学校生活を送ることができるよう施設を整備します。

②学校行事や授業参観等で保護者が学校を訪れる際は、自家用車で来校できるように努めますということで、この項目の5、学校再編に対して考慮すべき事項と対策につきましては、6月28日の第5回学校再編計画策定委員会で、先ほど説明しました保護者や地域の方が不安に感じていることを説明し、その対策として計画案の中に追加したものでございます。

これまで実施してきました各地区での説明会にはこの項目は、本文に含んでいません。参加者については、この項目についてのお知らせは一切ありません。

本日は考慮すべき事項と対策ということで、それぞれの意見交換をしていただきまして、保護者や地域の方にとって、よりよい結果となればと考えております。

また、今後につきましては、本日の総合教育会議の中で導き出された内容を受けて、修正すべき点については修正し、学校再編計画策定委員会に報告したあと、パブリックコメントを7月11日から8月9日までの30日間実施し、広く市民の方から御意見を伺う場を設けることとなります。最終的には、8月29日に開催予定の第8回教育委員会定例会で、付議事項として提出する予定となっております。

説明は、以上になります。

染谷市長

ありがとうございます。ただいま、教育総務課から説明がありました。ただいまの説明に対する事務局への質問のほかに本会議の検討議題として提案のあった再編計画案の5ページ以降に掲載されております、5番、学校再編に対して考慮すべき事項と対策について、委員の皆様からお一人お一人、御意見を伺いたいと思います。

初めに、(1)の通学の安全性の確保、(2)児童生徒及びその保護者の精神的・経済的負担の軽減の2項目についてお願いをいたします。

これはいずれも保護者の求めるものとは何かということも含めて、皆様方の御意見をいただければと思います。では、どうでしょうか、牧野委員、いかがですか。もしあれば。ほかに、先にお話しできる方がいらっしゃれば。

では、磯貝委員、よろしく申し上げます。

磯貝委員

6月末に行われた伊久美小学校での説明会、私はオブザーバーで参加させていただきまして、皆さんの率直な意見を伺うことができました。私自身としても、説明会に参加したのは初めてだったものですから、本当に勉強になりました。

再編にかかわる、きつい質問が出るかなと思ったのですが、割かし具体的な、先ほど説明があったとおり、例えばスクールバスがどこまで入るのかだとか、それから特認校の点がどうなるのかといった話題が出ました。

市長が言われました、通学の安全性についても、一部触れた質問があったのですが、私は、説明会が終わった後に自治会の方とお話をしたのですが、コミュニティバスが午前中少なくとも困ると。戻って来られないと。一旦出ると戻って来られないという時間帯になって

いるのだそうです。ですから、この辺りのことを具体的に進めていただくありがたいのかなと思います。

自転車通学についても、お話をさせてもらっていいですか。家山から島田に抜ける道で、結構、皆さんスピードを出すんですね。私も2、3回怖い思いをしました。確か、あそこは制限速度40キロメートルですか、制限速度近くで走っていても、後ろからくっついてきて怖い思いをした経験が2～3回あります。

もし、自転車通学になれば、安全を確保できるような設備を、ぜひともお願いをしたいと考えています。

ありがとうございます。

磯貝さんの次にどうですか、牧野さんありますか。

5月に説明会を開いていただいて、父兄の方及び地域の方が具体的に真剣に意見を言っていただいたことと、それを6月28日に素早く対応して、対策と考慮すべき事項ということで上げていただいたスピード感に、皆さんに感謝したいと思います。

いろいろな説明会がある中で、これは感想ですけれども、提言をあくまで尊重して、基本路線といいますか、小中学校での一定の集団規模について、島田市独自の数値を示していただいています。

というのは、具体的に言うと、3ページの②番、小学校の児童数についての規模、これは提言をそのまま受け継いでいます。中学校についても、また検討していただいて、少し言葉が分からなかったのですが、学級編制ができない場合というのは、単学級ということで、先ほど御説明がありましたので、そのように理解をして、中学校の規模も明確にここで基本的な方針を示していただいている。

それから、さらに④番目の長期的な展望について、夢育・地育のお話、これは島田の教育の今の根幹にある部分の言葉、小中一貫教育のこれからの進展について書いていただいて、島田市の教育の特色づくりを基本的な方針として、明確にうたってくれてあるので、非常に地域の皆さんに分かりやすく説明できていたのではないかなということです。

というのは、インターネット等、いろいろな情報を見ますと、世界的な学校の規模は1校100人が標準だとか、それから少ない人数の子供は預かって高度な教育者が教育をするのが理想だとか、いろいろなコメントがインターネットでは拾うことができます。

ですが、島田の教育は、もともと夢育・地育、これからですけれども小中一貫、それから地域の教育力が非常にすぐれている町なので、それを貫いているところから、その表れとしてこの短期間、5月から6月にかけてのたくさんの出席者による説明会での御意見、それから直ぐ対応しているこの対策を見て、これは感想だけれども、本当にほっとしています。

早い対応で、具体的に項目を出していただいている、事務局の自信と、それを理解しようという地元の皆さんの教育に対する熱い思いをこの文面から見えます。

特に、⑤番の具体的な事項については、ここに文科省の統廃合の現状

染谷市長

牧野委員

染谷市長

というネットから取りだした資料があるのですが、統合に伴い多額の費用を要するものということで、その一番先頭にあるのはスクールバス車庫整備、維持管理。それから、通学バス回転場整備、それから先ほど磯貝委員から話がありましたように駐輪場の設置、それから通学路の改修等、父兄の皆さん、あるいは地域の皆様が具体的に提示されている事項が、まさに文科省も上げています重要事項の中に出ています。それを、即座にこういうふうに入れてくれたことは、大変ありがたいと思います。

逆に、具体的にスクールバスを運行しますということは、これで見ると、結構なお金がかかります。その辺の市の思惑といいますか、予算化されていないことについては。

この件について、少し私が市長という立場でお話をさせていただきます。やはり、各地域の説明会に行ったとき、スクールバスはどうなんだ、制服はどうなんだと、財政に伴うことについて、教育委員会として、それはやりますという断言はできないですよ、裏づけがないのだから。そういう意味で、大変苦しい思いをさせてしまったと思います。

現在、例えば今年度、スクールバスの運行経費だけで4,398万5,000円という数値になっています。今後、湯日小学校、それから北中の統合に合わせて、スクールバスを両方に買わなければなりません。それから、島一小の統合のときには、北部を回る、このスクールバスを小型3台ぐらい買わなければいけないかなと思っています。

これらを合わせて、今ざっと概算ですけれども、バスの購入費だけで6,800万を超えるお金がかかるのですね。7,000万近いお金がバスの購入だけでかかる。

そして、令和6年という、北部と第一小学校が統合するころには、スクールバスの運行経費だけですけれども、約8,000万ちょっとということで、今の約倍のスクールバスの運行経費がかかることになります。

しかし、柔軟な対応を持ちながら、これを実行していかなければならないと思っておりますので、学校の統廃合を進めるに当たっては、子供の安全、安心という中では、これを必要経費としてみていかなければならないと思っております。

これだけではなくて、実はスクールバス、ほかにも川根も金谷も通ってまして、経年劣化で買い替えなければいけないスクールバスも毎年あるのですね。

ですから、こうした経費には多額の予算がかかります。しかし、これを学校の再編によって、よりよい子供たちの教育環境をつくるということにつながるのであれば、そして、安全・安心ということにつながるのであれば、必要な経費として使っていかなければいけないと思っております。

金額を皆様方にお話をするのは、きょうが初めてだと思いますが、その程度の金額はかかるということです。大体、バスを買うのに7,000万ぐらい、それから令和6年になると、今の約倍近いスクールバスの運行経費だけで、年間8,000万ぐらいかかるということが見込まれているところです。

牧野委員
染谷市長
牧野委員

続けていいですか。

はい。どうぞ。

もう一つ、(2)の精神的な負担というところから、少し話が飛ぶのですけれども、「Eジャーナルしずおか」というのが、静岡の教育委員会から毎月出ているのですが、212号。これに、今月の記事は多文化共生社会の実現に向けてということで、教職員として知っておきたい共生社会ということがここに書いてあります。下の方に小学校では、今後、統合学校ではという話で、外国人、生徒未来サポート事業を来年度新たに実施します。それと小中学校では、日本語指導コーディネーターを2人から4人に増強し、支援体制のより一層の充実を効果的な指導方法と普及・啓発を図っていますということで、多文化、外国人を取り巻くのが、ここには外国人と書いてあるのですけれども、そういったことで、県内全域で、日本全域と言っていいでしょうけれども、多文化共生社会として、学校が非常に動いてくることになります。この精神的な保護者の負担というのは、ますますいろいろな面で、外国人と一緒に隣の机で話をして、何か支障があるのではないかとか、もっといい学校になるよとか、いろいろな意味で、父兄の心配、不安というのは、さらに増大してくる時代がもう目の前にあるのではないのかと思っています。

そのような中でありますので、細かい対応を一つずつ出てきたのを直ぐにこうして解決していく姿勢がとても前向きでいいと思います。もっと、この中以上、例えば、情報ネットワーク、それから防犯カメラ、校歌は書いてありましたね。そういった細かいところが、まだたくさん出てくるのではないかなと思います。ですから、5番の(2)の細かい項目については、ありがたい項目と思っています。

染谷市長

具体的な話が出てきた中で、今後も考えていかなければいけないと思っています。

私のほうからは、このスクールバスや制服については、しっかりと保護者の皆様方の御不安を解消できるような財政的な措置をとりたいと考えているところです。

では、秋田委員、いかがですか。

秋田委員

通学の安全性というところですがすけれども、土日の部活動に参加する際の対応を検討しますとあるのですけれども、これに関しては、今は部活動についてのあり方が議論されてまして、部活動のあり方が変わりつつある時期だと思います。

そういう中で、もちろん参加する際の手段の部分を検討することも大事ですけれども、そこはどちらかというところと行政側のことなのかなと。

そこだけではなくて、統合した際に、子供たちがより参加しやすい部活動の体制というのは、整えていかなければいけないところなのかなと。あの部活はこうだけれど、こちらの部活はこうとかではなくて、学校としてある程度体制を整えていくことが保護者の安心にもつながるのかなと思います。

やはり情報が少ない、中学生になると子供はあまり話もうちでたくさんするわけではないので、そうすると親としては、分からないこと、不

安なことがいっぱいあると思いますので、ある程度こういう体制でやっていきますと明確に打ち出せると、保護者の方は安心していただけるのかなと感じています。

対等統合とはなっているのですけれども、説明会のときに上がってきた声を見せていただくと、対等ではない、不安に思っているのは北中学校の保護者の方なのかなと。一小、一中学区の保護者の方の意識が薄いというところも、もしかしたら北部の方たちの不安要素になっているのかなと少し感じています。

あと、自転車通学の件ですけれども、今、高校がすごく通学指導に力を入れていて、学校によっては、駅から高校までにこの道を通りなさいという指示が出ています。私の家の近くでも、高校の生徒会の生徒さんなどが朝に立って、通学してくる自分の学校の生徒に声をかけたりという活動が見られます。

そういうことを考えたときに、自転車通学をする子だけの問題ではなくて、自転車に乗っていたりすると、高校生ぐらいで加害者になってしまうケースもあるので。

やはり、ここでいま一度、島田市全体として、交通安全に対する指導というのは、見直すきっかけにはなるのかなと感じています。

統合するところだけではなくて、みんなのことだよという姿勢があると、該当する地域の方々の気持ちも違うのかなと感じています。

今、お話しいただいたとおり、この統合の問題は北部や初倉だけのことではなくて、市全体のことであると、そういう意識をもって、皆さんに関心をもっていただきたいと思います。今後、そうやって広がってまいります。

原委員、いかがでしょうか。

市長さんのお話を伺って、本当にありがたいと思ったわけですが、この考慮すべき事項と対策につきましては、特に保護者が一番心配しているのは、通学の安全性というのが一番ではないかなと思います。

それと、子供たちが統合後、上手に新しい仲間とやっていけるか、新しい環境になれて、充実感を持ってやっていけるかという不安が一番大きいのではないかなと思いました。

遠距離通学となりますので、当然スクールバスの問題が出てきて、どうなるのかなと思ったのですが、市長さんのお話を伺って、本当に多額の予算が必要になってくるわけですが、本当に手厚く対応してくださるということをお聞きして、地域の方もそれで安心できるのではないかなと思います。

この文章の(1)の①、通学の安全の遠距離通学のスクールバスの運行についてですが、基準については保護者の意見等を聞きながら柔軟に対応しますという、柔軟に対応するという言葉が入っています。

自転車通学もそうだと思うのですけれども、規定の距離というのがありますよね、法的に。それで押さなければいけない部分もあるとは思いますが、山間の本当に不便な地域で、急斜面もあるようなところを通学路になっている子供たちもいるのを考えると、法的なものだけ

染谷市長

原委員

で押せない部分も、もしかしたら状況によってはあるのではないかなと思います。ですから、現場を見きわめ、柔軟に対応していただけるという、この文言があることは、本当にありがたいと思いました。

それから、自転車通学につきましては、秋田さんと全く同じで、便利であるけれども、今、自転車による事故が大変増えていますし、自転車の子が加害者になることも大変増えています。ですから、ツールとしては便利であるけれども、危険な車と同類であるという意識を、全員が持つ必要があると思います。一定の利用者だけの問題ではなくて、やはり、こういうのは、全員が共通理解を持つべきだと思います。

あと、(2)の精神的・経済的なところですけども、本当に細かいところをきちんと直ぐに対応してくださっていて、これはありがたいと思いました。

北部の4校の小学校につきましては、修学旅行などで一緒に活動をしている部分もあるので、もしかしたら私たちが心配しているよりも、子供のほうがほかの友達と交流ができていて、楽しいと感じている部分ももしかしたらあるかもしれません。

しかし、状況が変わってくることも考えられますので、事前の児童生徒間の学校間交流というのは、計画的に進めるべきだなと思いました。

大変細かいところを、素早く事務局の方も対応してくださって、ありがたいと思いました。

教育長はいかがですか。

いろいろな意見ありがとうございました。

一つ、6ページの(2)の精神的・経済的な負担ということがあるのですが、少し紹介をしたいことがあります。

それは、今、カリキュラム検討委員会の準備会というのを開いて、例えば北中と一中でそれぞれ話し合いを始めています。そういう中で出てきたアイデアの一つとして、紹介したいことがありますからお話ししたいと思います。

これは完全に決定をしたわけではないのですが、こういうアイデアもあるということで、御承知しておいていただけたらありがたいと思うのは、例えば、一中では、今年度から北中の校歌が歌えるように子供たちに指導をしていく、来年交流をする中で、交流時には一中の子供たちが北中の校歌を歌える。ですから、一中も北中も、両方の校歌を歌えるような環境を作っていく、ということは、自分たちが大事にされるという雰囲気づくりのために大変いいことではないかなと思います。

そういうような、いろいろなアイデアを、受け入れ側も統合される側というのですか、入っていくほうも、それぞれが考えることによって、子供たちの負担、ストレスの軽減につながっていくのではないかなと思います。もう、既に準備会の段階から、そういうことがさまざまに検討されているということだけは紹介をしておきたいと思います。

これからもいろいろなアイデアを出す中で、子供たち、保護者の負担が軽減されればと思っています。

ありがとうございます。皆様から御意見を伺って、このところは学

染谷市長
濱田教育長

染谷市長

校間交流の充実でありますとか、それから安心、安全の問題、それから子供が新しい環境になれるかどうかというようなこと、さまざまにスクールバス、特認校の子供を含めて御意見をいただきました。

こうしたことについては、教育委員会だけでは言い切れなかった予算が絡む対策も必要になってまいりますので、スクールバスの運行、それから北中の現1年生が一中の3年生になるときの制服等の支給になるか貸与になるか、この辺りはいろいろ考えなければいけないことがございますが、こうしたことも含めて、私としては、子供たちに不安のないように対応してまいりたいと思っておりますので、御理解をいただければと思います。

それでは、学校再編は大きな環境の変化を伴うことでありますので、児童や保護者の皆様の御苦勞を考えて、行政としてもしっかり寄り添ってできるだけの支援をしてまいることで、御理解をいただければと思います。

続きまして、6ページの(3)のところになります。各学校の特色ある教育活動等の継承、新学校における施設の整備についてお伺いをしたいと思います。

全ての学校でやらなくても地域で継続できるようなことであったり、クラブ活動でやれることがあったり、さまざまなことがあるかと思うのですけれども、何か御紹介できるような事例がもし事務局にあれば、紹介をしていただきたいと思います。いかがでしょう。

ありますか。

鈴木学校教育課長

ここにも書かれているのですけれども、伊久美に行ったときに、地域の方から、ぜひ、今やっている移動教室は継続してほしいと、子供の声などもあるものですからということで、これについては検討していきたいと思えます。

染谷市長

分かりました。

この件について、6ページの(3)のところ、各学校の特色ある教育活動等も継承ということで、皆様方の御意見を伺いたいと思うのですがいかがでしょうか。

御意見のある方。では、磯貝さん、お願いします。

磯貝委員

これまでずっと、学校再編に検討してきた中身というのは、対等統合ということですのでけれども、まとめられるほう、統合されるほうの人たちを中心に考えてきたと思えます。

私も自分の考え方が、ちょっと間違っていたのかなと思ったことは、この間、伊久美小学校の説明会に出て、学校教育課長から、あるいは教育長から、学校の名前が変わるかもしれないと、統合するのだから、そういうことも含めて検討していますという話があったときに、統合ということについて、自分のこととして考えてないという、委員として恥ずかしい話ですが、それを考えました。というのは、私は第一小学校、一中の卒業生なので、まさか自分の学校の名前が変わるとは思わなかったというのが正直なところです。

ただ、学校教育課長や教育長の話を聞くにつれ、いろいろな子供たち

が集まる場なので、北部4小学校だけではなくて、第一小学校も一緒になると。ですから、いろいろな生徒が集まるのだから、これは学校の名前が変わるのは当たり前だと論理的に思いました。

というふうに、中学校でもそうですけれども、今、自分事として考えていない一中の保護者の人たちとか、地区の人たち、ひょっとしたら先生もいるかも分からない。小学校だけではなくて、中学校もそういうことも含めて、これから各地区で、まだ説明会が継続されると思いますけれども、無意味な反対がないように丁寧に進めていっていただきたいと思いました。まず、それが1点。

もう一つは、小中一貫校の話です。第一小学校、一中は近くにあるので、この2つの学校は交流しやすい形にありますけれども、一中は第三小学校のことがありますよね。第三小学校の卒業生が一中と二中に分かれてしまうので小中一貫校には、不向きではないかなと若干考えられるかも分かりませんが、例えば、先ほどの提言書だとか、夢育・地育の中で、教育長から伺ったのですけれども、島田は10年くらい、授業改善とか和文文化といったことで、ずっと継続して研究、研修してきているのです。その話を聞きましたら、例えば、そういうことができる小学校と中学校でやっていけないかなと、これは今後カリキュラム検討委員会の中で具体化されてはいくのしょうけれども、そういうことも含めて、やれるところからどんどんやっていったほうがいいのかという気もしましたので、ぜひ検討していただければありがたいと思います。

先ほど、牧野さんも夢育・地育のことをお話されましたし、特に北部の4小学校については、そういう独自のものを持っていますので、それをクラブ活動としてやっていくのか、授業としてやっていくのかは別として、中学生まで継続してやっていけるような、そういうものがあつたらいいなと思いました。

染谷市長

ありがとうございます。いかがでしょうか、ほかに次の方で御意見ある方いらっしゃいますか。

原委員

特色ある教育は、どこの地域でもすごいやってきていたし、文科省からも奨励されてきていましたので、それぞれの学校がやはり自慢になるものを持っているわけですよ。

北部の4小学校をみると、伊太にいけば陶芸の作品が毎年2回ぐらい作って、いっぱい持っている。相賀に行けば太鼓がある。それから伊久美に行けば自然があると、うちの学校はこれですという胸を張れるものをみんなもっているのですよね。それが、統合によって大きな中に入った中で、そこの出身の子供たちが、自慢できるものが言えなくなってしまう可能性もあるなど。

やはり、それでは子供たちにとっては誇りにはならないのでカリキュラム委員会が立ち上げられて、そこで一小が主となる4校が一緒になった中で何を自分たちの誇りとしていくか、自慢としていくかというのを、カリキュラム委員会の中で精選していく必要があるのではないのかなと、すごく強く思います。

染谷市長

はい。分かりました。

秋田委員

秋田さん、ありますか。

以前、北部の方とお話をしたときに、統合になった場合、学童はどうなる、そこが心配だという話がありました。

地域の方は、教育の機能が全て地域から出てしまうことは、とても不安だし、寂しい、何とかして子供たちの居場所を地域に作れないか、場合によっては、子供たちは地域に帰ってきて、そこで学童の時間を過ごす体制がとればいいのかだけでも、というお話もありました。

やはり、地域の方たちにとっては、子供というのは特別の存在であって、何らかの形で地域に子供たちの居場所を残してあげたいという気持ちは、あると思います。それは教育委員会だけではなくて、いろいろな課が、子育て応援課ですとか、地域での子供の活動となると学校教育課ではなくて、社会教育課であったりとか、いろいろなところが絡んでくる話とは思いますが、地域の方たちが自分たちでああいう方法があるのではないかと、こういう方法があるのではないかとという情報を集めるのがなかなか難しいかなと感じるところもあるので、事例的なものとか具体的なものを提案できるようになっていくと、地域の方たちも、こういうところは自分たちの地域でやっていけるのではないかと、全てを学校にお願いをしていくのはなかなか難しいと思うので、地域で守っていききたい、守っていける部分は地域でというような、役割分担ではないですけれども、いろいろなところの手を借りて、子供たちの居場所を作っていけるといいのかなと感じました。

染谷市長

これから、このところの検討は地元の方々も含めて、しっかりやっていきたいと思っています。

今でも放課後を見ていただいていたたり、寺子屋をやっていただいたり、さまざまに地域の教育力を生かしていただいております。そこは丁寧にやるということと、これまでの学校の再編の議論というのは、教育委員会さんをお願いをしていましたので、やはり学校現場の再編のお話だけになってしまっていて、跡地の利用の話だとか、ではスクールバスはどうするのか、地元の教育力をこれからどうお借りするのだというところまで、なかなか話が広がってこなかった。そこについては、今後、しっかりとお話を広げながら、統合までの間に決めてまいりたいと思っております。

牧野委員、いかがでしょうか。

牧野委員

特色のある教育、まさに島田の教育だと思います。太鼓、詩歌、たくさんありますが、次のステップとして地域に開かれた学校、コミュニティースクールにつながるに当たって、その地域の声を聞きながら学校教育に参加してもらおうという絶好のチャンスではないかなと思っております。統合を機に、地域の力をどう生かしていくか、皆さんの意見を聞けるいいチャンスではないかなと思います。

太鼓にしても、子供たちの自信がみなぎる、あの姿を見ると、続けていっていただきたいと思っています。

染谷市長

ありがとうございます。

教育長、皆さんの意見を聞いていかがでしょうか。

特色ある教育を継続することは大変難しい問題と思っています。単純に考えても、北部4小学校と一小と考えると、個々にそれぞれ特色があるわけです。それを全部織り込んだら、これはオーバーフローする部分があると思うのです。

ですから、何を残して、何を少し我慢するかということは考えなければなりません。我慢するときの方法として、いろいろな選択があると思うのです。

例えば、地域にやってもらう方法もあるし、全校でやるものを学年でやるとか、またはクラブ活動でやるとか。それから、もう一つの方法としては、有志だけでやるとか。いろいろな方法があると思うのです。ですから、そこは十分に、両校というのですか、双方の学校が知恵を出し合いながら、やり方を考えていくことが必要ではないかなと思います。

やはり、ある部分は地域でお願いをするしかないと思っています。それができないのではないかなと思っています。

中学校においても、例えば、北中の門松づくりはすばらしい取り組みと思うのですが、教員数も大分減ってきたものですから、教員が地域の力を借りながら材料を集めるのも、今はなかなか大変な状況です。そういうときに、それをもっとボリュームの多い一中の全校生徒でやるというのは、材料集めだけでも不可能に近いわけです。ですからある程度は絞らなければならない。また、地域の力を借りなければ材料を集めることも難しいし、つくり手の、要するに指導者としても、地域の力を借りなければならないことがありますから、そのところは十分な協議が必要ではないかなと思います。

ただ、一方で、笹間、川根の統合のことを考えますと、統合することによって特色が残るということもあります。例えば、笹間神楽の場合です。笹間中学校の人数が減ったために舞の数が減ってしまったのです。最初は順の舞、恵比寿大黒の舞、太刀の舞、3つを継承していたのですが、子供たちの人数が減ったために、太刀の舞がまず消えました。2つしか残せなかったのです、統合時には。ところが統合することによって、川根中学校の生徒も舞うようになったものですから、人数が増えたわけですね。それで太刀の舞が復活するということが起こったわけです。

ですから、人数が増えることによって、文化が継承されるというメリットもあるということです。必ずしも大きくなることで継承が難しいというだけではなくて、逆に継承されるということもあるものですから、ここはお互いに知恵を出し合いながら、どういう形で残していくかを考えていくことが大事ではないかなと思っています。

ありがとうございます。

いかがでしょうか、ほかにもこの件について、ある方がいらっしゃればお話を伺いたいと思いますが。よろしいでしょうか。

保護者の皆様からは、再編後の学校に対する期待の声も多数いただいていると思います。市としましても、ソフト・ハードの両面を充実できるように、しっかりと対応してまいりたいと思っておりますが、各地域で行ってきた教育や文化を統合の学校にもしっかりと受け継いでいくと

ということ、きょう、今、議論いただきました。

そして、もう一つは特認校の話ですが、希望者の気持ちに応じて、特認校の制度を伊久美からほかの学校に変わるとしても、代わるとしたら川根小かなと思いますが、こうした特認校制度もしっかりと引き継いでまいりたいと、そして統合に当たっては、責任を持って受け入れ校の施設の整備を進めていくということが、皆様の御意見からまとめられることではないかと思っておりますので、これらについては、しっかり対応をしてまいりたいと考えております。

次に、そのほかについて、教育総務課からの説明をお願いしたいと思います。先に説明をお願いします。

私から、閉校式典・閉校記念誌等について、御説明いたします。

本計画案のとおり学校再編が行われますと、幾つかの学校は閉校することになります。学校にはそれぞれの歴史がありますので、保護者や卒業生、地域の皆様のお気持ちを察するに、きちんとした形での締めくくりが必要ではないかと考えております。

先日、平成29年度に片浜小学校と相良小学校の統合を行った、牧之原市教育委員会を訪ねてきました。その際、統合に関しては、受け入れる学校の準備が大切なのはもちろんですが、閉校する学校の準備、こちらもそれ以上に大切だと、そういう経験談を伺ってきました。

そこで、事務局としては、閉校に向けた準備についてもできる限り支援することが望ましいと考えまして、先進事例などから閉校準備に関する項目をまとめてみました。

お手元の資料7をご覧ください。閉校に向けては、学校主体で地域住民や保護者が加わった実行委員会等を立ち上げ、次のような閉校準備に関する項目について、協議や運営を行っていくことが考えられるとしまして、まず実行委員会等を設置して、その中で閉校式の開催や閉校記念誌の発行を行っていくというものです。

実際には、その下の先進事例にありますように、それぞれの作業部会を設けて、保護者や地域の皆様の協力のもと準備を進めていくことになると考えております。

閉校式典や閉校記念誌につきましても、再編計画決定後に設置されるカリキュラム検討委員会で具体的に詰めていくこととなりますが、児童生徒や地域の皆様の心に深く残るものにしていただければ、市と教育委員会も連携して必要な支援を行っていきたいと考えています。

ぜひ、そちらにつきましても、できる限りの協力をしていくという方向で皆様の御意見をいただきたいと思っております。

閉校式典・閉校記念誌等についての説明は以上です。

ありがとうございます。

ただいまの事務局の説明から、再編が決まりましたら対象となった学校では、閉校に向けた記念式典等の準備が始まるということになります。こちらについても、しっかりと対応していきたいとこのことですけれども、委員の皆様から、この件について御意見がありましたら伺いたいと思っております、いかがでしょうか。

廣田教育総務課
係長

染谷市長

磯貝委員

雑談っぽくなって申しわけないのですが、川根小学校のホームページを見ると、川根小学校ができてから50周年を迎えましたという記事が目に入ります。実は川根小学校は、確か昭和44年に川根小学校という名前がついたのですけれども、その前は4つの小学校で、プラス笹間小学校の5つがあるわけですよ。一番古い小学校が塩本小学校だったかなと思うのですけれども、明治6、7年ではないでしょうか、100年近くの伝統があるところが消えて、新しい名前になったのですけれども。

僕はいつも思うのですけれども、ホームページにそういうことを書かれるのであったら、かつての小学校の名前もぜひ併記してもらいたいという気持ちが、いつもホームページを見ると思います。

確か塩本、家山、身成、葛籠、笹間という5つの小学校がなくなって川根小学校になっているわけですから、そこら辺のことはホームページだけの話ではないのですけれども、きちんと記録簿を残して、小学校で大事にしていただきたいと思います。

染谷市長

ありがとうございます。

牧野委員、ありますか。

牧野委員

閉校というと寂しいので、何か別の名前があったら考えてみてください。

染谷市長

原委員、いかがですか。

原委員

式典と記念誌のことについて、考えてくださっているわけですが、これだけではなくて、備品関係といったら何ですが、今ある校舎が何に使われて、そこで何が必要で残されて、ほかの校舎の中にあるいろいろな備品は、そのあとどのように、廃棄されるものもあるでしょうし、どこかで再利用されるものもあるでしょうし、そういう計画とか見きわめとかということも必要ではないのかなと思いました。

染谷市長

分かりました。

秋田委員、いかがですか。

秋田委員

閉校する学校はどこも小規模校になるので、先生方の手も人数が限られていると思います。

先日、湯日小学校に伺ったときに、この広い校舎をこの人数で掃除して管理していると思うと大変だという話も出ました。どこも、そういう状況だと思いますので、該当する学校だけの問題ではなく、やはり市のこととして、いろいろな手が差し伸べられるといいなと感じています。

閉校準備がかかわってくる学校の職員の方々が、ここをやってほしいと、安心して声を上げられるような体制ができればいいなと思います。

染谷市長

教育長、何かありますか。

濱田教育長

原委員がお話しになりました備品関係については、基本的に統合する学校で、必要なものについては有効に活用していくというのが第一原則だと思います。

その後、市内の学校に広く周知して、各学校からその学校に来ていただいて必要な備品はそれぞれの学校で活用していただく、その後、行政関係で必要な備品等もあると思うのですが、そこで活用する。その後については、また、一般の廃棄にしていくのか、いろいろな使い方があ

ると思うのですが、そのものについては、行政当局と少し相談しながら決めていく話になると思います。

一番目は、統合校同士での活用、次が市内の学校での活用、次は行政関係での活用、というような順番をもって、備品は有効に活用していくことになるのではないかと思います。

今でも、例えば湯日小学校の話がでましたが、校舎の掃除だけでも少ない人数でやっていくのは大変な思いをしていると、私たちも承知をしています。

いろいろな形で式典まで、また閉校に向けて準備するためには、人手は必要ですから、そこは、保護者や地域の皆様の力、そして教育委員会サイドの人手も考えながら対応していくことが大事ではないかと思っています。

染谷市長

そうですね。また、閉校に係るさまざまな経費もこれから予算化していかなければいけないことだと考えております。細かなことまで算出されておりませんし、当初で上げるのか、それとも必要に応じて補正で上げていくのかということも、まだ検討課題でございますが、いずれにいたしましても閉校に係る経費についても、しっかり予算化していかなければならないと考えております。

ほかには、いかがでしょうか。もし、御意見があればお聞かせください。よろしいですか。

今のところをまとめますと、計画的に具体的な対策をしっかりとせて、具体的に一つ一つを潰していくような安心できる計画をつくってほしいということだったと思います。

それから、希望の持てる再編になるように、閉校という言葉はあんまりいい言葉ではないのではないかとのお話も出ましたが、希望の持てる再編となるように、全市ぐるみで、当事者となる学校だけの話ではないと思っています。

子供の数が激減していく時代にあって、学校の再編というのは、よりよい教育環境を維持するためにも必要なことであると思っています。

そうした中で、希望の持てる再編になるように、中長期的に言えば、一貫校がどこも実現できるようになるためには、まだまだ市内の大きな、三小の問題等も含めて課題がございますので、話題になっている北部と初倉のことだけではないと御理解をいただければと思っています。

多くの意見をいただきました。ほかに、きょうのことをトータルでここは言っておきたい、あるいはもう少し思いはあるのだけれどもというところがあれば、お聞かせ願いたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいですか。

濱田教育長

片浜小学校の事例を聞きますと、片浜小学校のときは、大きな統合への反対運動が起きました。そういう中で、統合のための交流などが行われていったわけですが、交流を終えた子供たちが家に帰って、とっても楽しかったという話を聞くことによって、保護者の考えも賛成の方に大きく傾いていったという、もっと言うと保護者の安心感につながっていったというのを聞きました。

やはり、統合を迎えるには、子供の笑顔というのですか、子供の安心、子供の喜び、楽しさというところが大きなキーポイントになると思うものですから、交流においても、そして統合においても、そのところを大事にしていくと、この統合というのは保護者にも地域にも理解されていくのではないかなと思っています。

一小の校長からお話を聞いたことを、少し紹介をしておきたいと思います。一小は、今後、北部4校と統合するわけですね。そのときに、私自身は令和5年に交流すればいいと思っていたのです。そうしたら、地域からはもう少し早目に交流をして欲しいという意見が出たものですから、それを受けて、できるだけ早い時期から交流をしていこう、その一つのアイデアとして、例えば、相賀の太鼓を第一小学校の文化祭のときに招待して演奏してもらおう。こういうことも考えていこうとも言っていました。

それを、例えば来年度からできれば、太鼓を運ぶとか、子供たちの移動手段の費用、それも一小のほうで持ちましよう、ということまで考えてくださっています。

まだ、アイデアの段階ですから、いつから、どういう形で実現するか、不明の面もありますが、そういう積極的な姿勢を見せている学校もあるものですから、今後は楽しみではないかなと思います。

そういう中で、お互いのよさ、または特色ある教育をお互いが共有する中で、新しい展開もあるだろうし、先ほど市長からも、全市的な問題だという話をしますと、もう一歩進めて、例えば、今、相賀の太鼓が出ましたから、相賀の太鼓を四小とか、三小とか、六小でもとすれば、相賀ではこういうすばらしい太鼓の活動をやっているというのが、いろいろなところで知られていくということもあると思うのです。

あまりたくさんやりますと、相賀の負担になってしまいますから、順番とか、負担軽減する中で、考えていかなければならないと思うのですけれども、アイデアは広がると思うのですね。

いろいろなアイデアを出しながら、子供たちの喜びにつながる、または地域の満足につながる、そして地域のよさを生かすという教育は、やる可能性はあるのではないかなと、考えているところです。

今の教育長の話で思い出したのですけれども、私もサラリーマン時代、毎年、いろいろ目標が掲げられるわけですよ。年度末にそこに到達ができるかどうか分からないのですけれども、やはりみんなのベクトルが合うと、目標に到達できなくても、充実感は結構あるのですよね。

だから、この統合の問題についても、第一小学校のほう、受け入れるほうで、そういうことがあるというのはとてもうれしい話で、そういうことが保護者に伝わっていくと、また統合されるほうとしても、目標ができて、一人一人の子供にとって、具体的な目標ができると、第一小学校の今いる子供たちと一緒にあって、何かをつくり出していくという、そういう何かストーリーみたいなものできると、すごく子供にとっても受け入れやすいというか、成功例になるのではないかなと思っています。その辺りは事務局の方々に、ぜひ具体的な方策をお願いしたいと思います。

染谷市長
秋田委員

具体的にはカリキュラム委員会で、それは検討されていくのだと思いますけれども。今、教育長の話から、昔の話を思い出しましたので。

ありがとうございます。いかがでしょうか、ほかには。

今、お話を伺ってみて、そういった活動があったときに、それを全市的に発信していただけたらうれしいと思います。

なかなか学校単位での動きというのは、学校のホームページにアクセスをしないと知りえなかったりするので、広報とか市民の皆さんが目につくような形で知れると、市全体の活動として高まっていくのかなと感じました。

染谷市長

そうですね。どうですか、小中学校で演劇の発表とか、それから合唱の発表とか、いろいろな発表の場とかあるのでしようけれども、各学校が力を入れているものに対して発表しあうような場はあるのですか。

濱田教育長

各学校がというと、なかなかないですね。中学でいうと部活単位の発表会とかはあるのですが、または市内の音楽発表会はあったのですが、多分、これからはそういうのも縮小されてくる時代になってくると思うのです。働き方改革の影響があって、そう考えますと、なかなか難しいと思います。

今、秋田さんがおっしゃったように、今度どう広げていくかというのは、大事な要素だと思いますね。

染谷市長

私自身は、これは教育部の話ではなくて、一般の話ですけれども、島田はとても太鼓が盛んなところですよ。川越し太鼓とか、さんろく太鼓とか、松龍太鼓とか、川根でもやっていますし。

そういう地域、島田市内にある太鼓が一堂に会して披露しあうような場があったらいいのにと、ずっと前から思っているものですから、そういうところで子供も演奏してもらえたら、島田全体として太鼓の文化力というか、地域に根差した文化活動として、太鼓があるということをもっともっとアピールできるのではないかなと、前から思っているのですが、なかなか、まだ実現ができておりません。いろいろな形で、そうした和文化やら地域の伝統を相互に交流しながら発表できる、発信できる場があるといいですね。

きょうは、大変短い時間ではありましたが、率直な意見交換ができましたこと、心から感謝申し上げます。

皆様からいただきました御意見をもとに、小中学校の再編につきまして、市全体として支援をしてまいりたいと考えております。

冒頭の挨拶で、申し上げましたとおり、学校再編はこれに関する子供や保護者、地域住民にとって、大変大きな転機になることに間違いはありません。統合してよかったと思っただけのような再編となるように、市民と手を携えて、手を取り合って進んでまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

私も、自治会の皆様にお会いする機会等があるときに、こういったことを働きかけてまいりたいと思っております。

それでは以上をもちまして、第1回の総合教育会議を閉会いたします。

次回は、10月11日の開催を予定しておりますので、よろしく願います。

たします。

本日はお忙しいところ大変ありがとうございました。

閉 会 午後 3 時 27 分